

1. 会 議 名 令和7年度 第3回 印西市環境推進会議（市民会議）
2. 日 時 令和7年9月19日（金）9：30～11：30
3. 場 所 市役所 会議棟 204会議室
4. 出席委員：小山会長、白川副会長、岩井委員、片桐委員、國武委員、富川委員
橋本委員、福井委員、村形委員、渡辺委員
事 務 局：浅井主査補、及川主任主事、本庄主事
5. 傍 聴 者 0名
6. 配布資料
 - ・会議次第
 - ・令和7年度第4回印西市環境推進会議（市民会議）視察研修について（案）
 - ・谷津ミュージアム案内図
 - ・Maas 関連アンケート
 - （1）開会
 - （2）会長挨拶
 - （3）議事
 1. 視察研修について

—視察研修について事務局より説明—

事務局：我孫子市に連絡を取り、谷津ミュージアムの視察について可否をお伺いしたところ、ボランティア団体の谷津ミュージアムの会の方の日程も含めて調整いただき、快く引き受けていただいたので視察先は谷津ミュージアムとしたい。

会 長：私たち市民にとっても行政にとっても役に立つ情報を得られるんじゃないかという判断での決定ということですが、よろしいか。

委 員：（異論なし）

会 長：ではこれで決定とします。何か質問はあるか。

委 員：これまでの視察研修では14時か16時ぐらいまでかかり、お昼も食べた気がするが、かかる時間はどれほどか。

事務局：今回は午前中だが、ミュージアム内を長時間歩き回る可能性があるので、体力的にも少し疲れるかと予想する。

委 員：スタート場所はどこか。

事務局：案内図の右下の方に記載のある作業小屋付近となる。そこに車を停めて、先方と合流し歩き始める。距離があるので端まで行かず、おそらく半分ぐらいとなるだろう。

委 員：どのような順番で歩くのか。

事務局：我孫子市にお任せしているので事務局では把握していないが、視察予定時間に

合わせてもらう予定としている。

委 員：そもそも、谷津ミュージアムとは何か。

事務局：谷津ミュージアムは我孫子市にて 2002 年から手賀沼沿いで最も谷津の地形と自然環境が残されている場所ということで谷津ミュージアム事業を進めている。市と市民により設立した谷津ミュージアムの会を中心に、谷津田で米作りや、ゲンジボタルやニホンアカガエルの生息環境である湿地・雑木林づくりなど、様々な維持管理作業を行っている。

委 員：田んぼもあるのか。

事務局：手植え、手刈りで運営している田んぼがあると聞いている。

会 長：私有地の田んぼもあるのではないか。

事務局：私有地もかなりある。

委 員：私はホタル・アカガエルの里を見たいが、そこへは行くのか。

事務局：今の時点では不明。ルートの希望を我孫子市に伝えることはできる。

委 員：ではホタル・アカガエルの里とカワセミの池を見たい。

事務局：西側の方は遠いので、行けて真ん中ぐらいかと考える。

委 員：日程は 10 月 15 日のみか。

事務局：我孫子市の部会とボランティア団体の活動日が重複するのがこの日しか無いため、この日のみとなる。

委 員：（何名か欠席の旨の申告あり）

会 長：服装はこの時期スズメバチがまだ沢山いるので、必ず白っぽい服装で。特に帽子は白っぽいものとし、尚且つ足首や手首を覆うような長袖長ズボンでお願いします。

会 長：研修先への質問について、事前に委員の方に 10 個出していただいているが、他にもあれば出していきましょう。まずは私から良いか。

手植えで田植えをするには多くの人員が必要だが、その人を集める方法や工夫点、参加費の有無などを聞きたい。団体の所属人数や、年間の活動内容は当日聞きたい。

委 員：隣接するゴルフ場との関係性が聞きたい。

会 長：民地との関係において農薬の使用の可否や収穫補償の有無について知りたい。

委 員：水路が細めなので雨が降った時の治水について知りたい。

会 長：もし追加があれば、9 月 24 日までに事務局に提出してください。では次の議題に参ります。

2. 環境基本計画の推進に係る取組の検討について

—グループ討議—

会 長：では発表をお願いします。

委 員：私たちのチームは「サステイナブル」チームで、エコカレンダーを去年 2025 年版ということで出したが、2026 年も同様の形で環境に関する事を課題にしたカレンダーを作るという形で進めることにした。今回 2026 年版のドラフトを作ったので、その確認と 12 月 1 日号の広報にカレンダー配布の件を掲載する方向で進めることとした。2027 年は、より地域に根差した活動されている方々の写真を載せ、市民に私たちの活動を PR するために、少しずつ紙面を市民側に寄せていくようにしていきたいという結論になった。

会 長：では私たちグリーンインフラのグループは、グリーンインフラを進める観点から、特に印西市の耕作放棄地などに残っている希少種の保護や、農業をどう守っていくかという観点から話をした。

保護を実施するモデル地区を作ることやすでに市内で活動している市民団体と所有資産を共有するなど、どのようにして協力していくかということが今後の課題だ。

一番大きな問題が、人を確保するシステムが必要であるということだ。事務をする人、段取りをする人、実際に活動する人、後継者問題がどの団体でも問題になっているので、里地里山を守るというのは農業と一緒に、市と一緒に守っていくしかない。市民が協力する体制を含めて、市が積極的に取り組んでほしいなと思い、そのために私たち市民は何をするかということを今後しっかり話し詰めていきたい。

会 長：では協議すべき事項はこれで終わりにし、事務局にお返りする。

（４）その他

—中央駅前データセンターの配置について事務局より説明—

事務局：データセンターの建設について、市で何か動いているのかという質問に対し、市では将来的な地区計画の変更を視野に入れた検討を実施しているのと同時に、7 月 25 日にコスモスパレットで「印西市のこれからのまちづくり」と題し、市長が市内に土地を所有する事業者や大学、商工会等の関係者に講演を行ったところである。

会 長：これについてはまだ住民の意見を聞くような機会はあるのか。

委 員：私はタウンセンター地区の会議にも入っていろいろな活動を少しずつ進めているが、現状としては守る会として、県議、市議、様々なところに働きかけて、直接アメリカの本社に対して活動している。先方からは法的には問題ないといわれるが、民意として何かできないのかということで署名活動をし、印西市長に提出した。

委 員：例えばこの会で、何か反対なら反対という意見の集約をして、それを市に出すとかという手は考えられないか。

委 員：（賛成の声あり）

会 長：環境推進会議としての意見提出は、市長に答申する機関ではないため難しいと感じる。市に答申できるのは環境審議会という場であって、市民会議では市民としてできる活動を推進していくというのが規則で会の目的として決まっている。そのためデータセンターの件は一市民として自主的に集まるという形にしたいと思います。

（５）閉会

以上

令和７年度第３回印西市環境推進会議（市民会議）の会議録は、事実と相違ないことを承認する。

令和７年１０月１６日

印西市環境推進会議（市民会議） 委 員 國武 悠人

印西市環境推進会議（市民会議） 委 員 白川 卓生